

豪ドル、雇用改善すれば利上げ期待も

- ◆豪ドル、RBA は利上げに慎重姿勢も政策決定のフットワークは軽く要注意
- ◆豪ドル、インフレ懸念の中で雇用統計改善すれば利上げ期待高まるか
- ◆ZAR、中期予算発表に注目

予想レンジ

豪ドル円 83.00-88.00 円

南ア・ランド円 7.20-7.70 円

11月8日週の展望

豪ドルは堅調か。今週開かれた豪準備銀行（RBA）理事会では、市場予想通り政策金利を据え置き、来年2月中旬まで週40億豪ドルの国債買い入れの継続を決定した。一方、3年債利回りの0.10%の目標を撤廃。ロウ RBA 総裁は「イールドカーブコントロール（YCC）の再導入の可能性も低い」との見解を示した。理事会後は、声明文で利上げの時期までに「一定の時間がかかる」としたことなどが材料視されて、豪金利が低下。豪ドルも下落した。しかしながら、中長期的にみると豪ドルを売り込むような見解ではないとみることも出来る。RBA は、つい最近まで YCC を目指していたにも関わらず、今回、突然導入の中止を決定した。この数カ月は原油価格やコモディティ価格の急騰などでインフレ高進が懸念されている。当局の政策決定に対するフットワークの軽さを考慮すれば、利上げが遠いと決めつけることは出来ないだろう。

もっとも、豪州のインフレ指標の発表が当面は予定されていないこともあり、原油や鉄鉱石などのコモディティ価格などの値動きや、他国のインフレ指標などに注視する必要があるようだ。

来週発表される経済指標で注目されるのは、11日に予定されている10月の雇用統計。ここ最近の失業率は4%台で安定した結果を見せているが、コロナ禍で就業を諦めた人が増加しており、労働参加率が低下している。市場はポジティブサプライズに反応しやすい状況のなか、仮に失業率がこれまで通り安定し、労働参加率も回復した場合は、RBA の利上げ期待が高まり、豪ドル買いにつながりそうだ。

南アフリカ・ランド（ZAR）は売りと買いの材料が拮抗し、不安定な動きとなりそうだ。ZAR 売りの要因としては、今週の地方選で与党・アフリカ民族会議（ANC）の獲得票数が大幅に減少したこと。選挙結果を受けて、今後ラマポーザ南ア大統領が与党内での政権争いに巻き込まれる危険性や、国民の不満が再びデモ・暴動につながる可能性も否定できない。買い要因としては、コモディティ価格が大きく崩れるような地合いではなく、資源国通貨としての ZAR には支えとなるだろう。

来週注目されるのは、11日に発表される中期予算発表（MTBPS）。中期予算では、今後3年間にわたる政府の優先事項が示される。国内総生産（GDP）に対する財政赤字の予想やインフラ投資など、様々な分野について発表される予定。

11月1日週の回顧

豪ドルは売られる展開となった。RBA 理事会後は利上げに対して言及がなかったこともあり、利食い優先で弱含んだ。豪州のインフレ懸念や、隣国の NZ の失業率が好結果だったことなどもあり買い戻される場面もみられたが、原油価格の下落などを受けて再び値を下げた。ZAR は方向感のない動きだった。南アの地方選挙で与党・ANC の獲得票数が大幅に減少したことが ZAR の重しとなったが、FOMC 後はリスクオン地合いで買い戻しも入った。（了）